

## 南荻窪中央公園改修に伴う設計打合せ会（第1回）会議録

【日時】平成23年1月31日（月） 午後7時～8時30分

【場所】荻窪地域区民センター 2階 第一集会室

【参加者】19名

### 【説明概要】

#### 1) 公園の概要

- 公園の周辺状況
- 周辺の公園（荻窪第一児童遊園、南荻窪公園、荻窪公園）
- 南荻窪中央公園の現況

#### 2) 拡張整備の説明

- 整備後の公園のイメージを提案
  - ・エントランスゾーン：入口を広げ、見通しを良くし、入りやすくする。
  - ・武蔵野の庭ゾーン：資料などによると与謝野夫妻が住んでいた頃はみどり豊かな庭であったので、その雰囲気を感じる植栽をする。
  - ・憩いのゾーン：休憩したり、往時を偲ぶ時間を過ごせる場を設ける。
  - ・歌人の家ゾーン：家の間取りを石畳で表現する。
  - ・全体：四季にちなんだ歌碑の設置やゆかりの樹木・花を植える。

### 【発言の要旨】

発 言 者	発 言 の 要 旨
参加者	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 図面右下の凹んでいる箇所を買収する予定はないのか？</li> <li>・ 球戯場でバットやサッカー禁止を緩和できないか？</li> <li>・ 球戯場はなくすのか？</li> <li>・ 公園内を禁煙にできないか？</li> </ul>
杉並区（以下「区」という。）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 取得できる状態ではありません。</li> <li>・ 今回の提案では、球戯場は撤去することを前提としています。拡張を機に公園の使い方を変えていこうと考えています。</li> <li>・ 大きな公園では、園内は基本的に分煙としています。この公園で、全面禁煙とするには条件がそろっていません。</li> </ul>
参加者	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 現在D級ポンプがあるがすぐ使えるようにトイレの並びに移設し、可能な限り大きなものを設置してほしい。</li> <li>・ 花咲かせ隊の花壇が1箇所あるが、少ない。もう1箇所花を植える場所をつくってほしい。</li> <li>・ 与謝野夫妻のゆかりの地であることや晶子は桃井第二小学校の校歌を作詞した。荻窪全体としての文化の象徴として考えてほしい。</li> </ul>
参加者	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 小6と小2の子どもがいて、公園でよく遊ばせてもらっている。</li> <li>・ 昼間に園児が遊ぶ声が響くのは微笑ましい。</li> <li>・ 南荻窪四丁目にはこの公園しかない。</li> <li>・ 球戯場では大きな子が遊んでいるが、バットもサッカーも禁止だと、代わりにバスケットのゴールとかが必要なのでは？何もないところでは、子どもはどこで遊べばいいのか？</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・休日朝早くのキャッチボールは、音が響くので勘弁してほしい。</li> <li>・今の球戯場に代わる遊びの空間がほしい。</li> </ul>
区	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「武蔵野の庭」は、広場としての遊びの空間でもあります。</li> <li>・この公園は、コンパクトな中にいろいろな要素が入っています。</li> <li>・「武蔵野の庭」は、木の間を駆けまわって遊べる空間ととらえています。</li> </ul>
参加者	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保育園が運動会の練習に使っているが、改修後にそのような使い方ができるのか？</li> <li>・近くの小学校でバットによる事故があった。野球（バット）は危険ではないか。</li> <li>・実のなる木や植物を植えてほしい。子どもを惹きつける要素であるし学習にもなる。</li> </ul>
参加者	与謝野邸旧居跡であることに意味がある。
区	今回の提案では、遊びの動きをシフトし、かつ与謝野晶子としての特色を強くしたものです。
参加者	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ここは子どものための公園でなくてもよいのではないか。</li> <li>・実のなる木を植えるのは賛成。ケヤキの木には様々な種類の鳥が集まるので、誰か詳しい人が教えられたらよい。</li> <li>・「歌人の家」ゾーンに小さな建物ができないか？屋根だけでもよいので歌会でもできたらと思う。</li> </ul>
区	<ul style="list-style-type: none"> <li>・このエリアでは半径250m以内に他の公園がありません。こどもの遊び場をなくすことはできないと考えています。</li> <li>・憩いのゾーンに東屋のようなものを設置し、歌人の家ゾーンの石畳を眺めるような設えを考えています。</li> </ul>
参加者	<ul style="list-style-type: none"> <li>・この公園は昭和57年3月にオープンした。その時は区の方針で大中小の公園をつくることになっていて、スムーズにいった。もともと木が生い茂る場所だったが、更地にして区に売却したが、いまは木が大きくなっている。</li> <li>・公園の名前について区にお願いしたが、大田黒公園は土地を寄付したので名前がついたが、この公園は区が買収したのでできないとの事だった。</li> <li>・平成19年11月に歌碑（200万円かかった）のオープニング式典の時には公園に入りきれない程人が来た。</li> <li>・歌碑をつけたことで、散策の人が増え、活性化の成果が少し出てきた。</li> <li>・今の公園の形状だと、L形になっていて奥が見えないのが問題だが、拡張することで改善するのではないか。</li> <li>・もっと具体的な案を見せてもらって意見を出しあって決めていきたい。</li> </ul>
区	本日は、球戯場をなくすことに関しても意見を伺いたいと思います。具体的な絵は次回提案いたします。

参加者	<ul style="list-style-type: none"> <li>・この公園は、子どもを育てる上でありがたい公園であり、思い出深い公園である。</li> <li>・いつから工事を始めるのか？</li> <li>・球戯場をなくすことが前提なのか？</li> <li>・サッカー禁止なのはなぜか？</li> <li>・意見として <ul style="list-style-type: none"> <li>①ボール遊びする場所がほしい。</li> <li>②サッカーなどが近所迷惑なのはわかるが、できるようになんとか調整できないか。</li> </ul> </li> </ul>
区	<ul style="list-style-type: none"> <li>・樹木を移植する関係から夏過ぎから工事を始めたいと考えています。</li> <li>・球戯場については、もっと意見を出してください。</li> <li>・小さい子どもと大きな子どもと一緒にボール遊びすると、危険が生じてしまいます。何が良くてだめなのかは一概に言えないので、遊ぶ方が自主的に判断してほしいと思いますが、危険が生じる可能性がある以上禁止としています。</li> </ul>
参加者	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今回の案では、球戯場や遊具や水施設は全てなくなるのか。</li> <li>・ポンプ倉庫やトイレ、パーゴラに登っている子どもがいる。また、倉庫の裏や北西の角にダンボールで秘密基地を作っているの、死角がないようにしてほしい。</li> <li>・防犯カメラ等を付けられないか？</li> </ul>
区	<ul style="list-style-type: none"> <li>・案では全てなくなることを想定しています。</li> <li>・目が届かない状態は危険であると認識しています。だからといって、ポンプ倉庫を目立つところに置くのも景観上いかがなものかと考えています。</li> <li>・杉並区では通常の公園には防犯カメラは設置していません。</li> </ul>
参加者	<ul style="list-style-type: none"> <li>・与謝野晶子の業績を称えるという意味を強くすべきだ。堺には記念館があり、文物が収められている。鉄筋コンクリートで記念館をつくったらどうか。全国に2～3万人のファンがいるので、荻窪のまちおこしの一環となる。公園の価値が2倍3倍になる。</li> </ul>
区	<ul style="list-style-type: none"> <li>・都市公園法の建築の制限や予算上記念館はできません。</li> <li>・今回公園事業ということでやっており、記念館設立事業のようなことは考えていません。</li> <li>・当面公園という形で整備し、その後、記念館という意見があれば、区全体として次のステップに進むような形になるかと思います。</li> </ul>
参加者	<ul style="list-style-type: none"> <li>・奥の散策路は目が届かない場所で危険だ。特に北側の通路が一番怖い、残すのか？</li> </ul>
区	<ul style="list-style-type: none"> <li>・非常時に逃げ場となるように、2方向に入口がある方が好ましいので残します。</li> </ul>

参加者	<ul style="list-style-type: none"> <li>・読書の森公園は小さい子どもはいなくて、ほとんど使われていないので、球戯ができるような作りにすればよいのではないか。</li> <li>・南荻窪中央公園は、小さな子どものために残すべきで、どのような人が使っているのかを調査してから考えてほしい。</li> </ul>
区	区では規模によって公園の役割を決めています。調査も行った上で、検討しています。
参加者	公園のあり方としては、遊びだけでなく環境整備という面もある。利用するしないとは別問題である。
参加者	与謝野公園という名前にすることはできるのか？
区	名前については、いろいろな意見があります。与謝野家に承諾を得る必要もあります。
参加者	歌碑のオープニングの時、当時の区長が「公園の名前を変える」といったという話もある。
区	このゾーニング案で、設計を進めてもよろしいでしょうか？
参加者	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今ここにいるメンバーで決めてしまうのか？</li> <li>・提示されているゾーニング案では、判断できないし今との比較もできない。</li> <li>・近所の人間にとって、公園の優先順位は高い。</li> <li>・与謝野ゆかりということは分かるが、公園内に何も無いと寂しい。</li> </ul>
区	球戯場の有無が大きなポイントなので、方向性を決めたいと思います。
参加者	球戯場を残せとは言わないが、低学年がボール遊びできるゾーンが出来ればよいのではないか。
参加者	南荻窪中央公園は、小さな子どもが集う場になっている。
区	<ul style="list-style-type: none"> <li>・このような公園の改修は区としてもなかなかないことであり、地元の意見を聞いて丁寧に説明したいと考えています。</li> <li>・球戯場をなくした形で、設計を進めたいと思います。</li> </ul>

南荻窪中央公園改修に伴う  
設計打合せ会資料

平成 23 年 1 月 31 日（月）  
《会場》荻窪地域区民センター 第一集会室

杉並区都市整備部みどり公園課

～ 本日の予定 ～

- 1) 開会（午後 7 時）
- 2) 区職員紹介
- 3) みどり公園課長あいさつ
- 4) 公園の概要と拡張整備の説明
- 5) 意見交換
- 6) 閉会（午後 8 時 30 分）

このたび、南荻窪中央公園の隣接地約 100 m<sup>2</sup>の取得により、公園面積が約 1400 m<sup>2</sup>に拡張します。

そこで、既存の公園と拡張部分を一体的に整備するための改修工事を行うことになりました。

## 1 南荻窪中央公園の概要

【所在地】 杉並区南荻窪四丁目 3 番 22 号

【面積】 1 2 9 6 . 5 9 m<sup>2</sup>

【開設年月日】 昭和 57 年 3 月 20 日

【主な施設】

複合遊具、砂場、流れ、球戯場、便所、歌碑、文化財標示板等

【近くにある公園】

- ・ 荻窪第一児童遊園 361.23 m<sup>2</sup>（南荻窪 2-25-16）
- ・ 南荻窪公園 709.93 m<sup>2</sup>（南荻窪 1-28-11）
- ・ 荻窪公園 1382.45 m<sup>2</sup>（荻窪 2-27-8） など

## 2 公園の拡張

【拡張面積】 1 0 3 . 3 2 m<sup>2</sup>

【公園全体の敷地面積】 1 , 3 9 9 . 9 1 m<sup>2</sup>

## 3 公園の経歴

南荻窪中央公園には、かつて、歌人 与謝野鉄幹・晶子夫妻が往年を過ごした居宅がありました。昭和 2 年、与謝野夫妻は、麴町からこの地に移り住み、数多くの作品を残しました。みどり生い茂る庭の中に、日本風の家屋(采花荘)と洋風の家屋(遙青書屋)、茶室(冬柏亭)の 3 棟がありました。

現在は、園内にある地域の方々寄贈による歌碑や文化財案内標示板によりこの地が居宅であったことを偲ぶことができます。

参考資料 「文化財標示板」本文より

与謝野鉄幹・晶子旧居跡

現在、公園となっているこの場所は明治・大正・昭和にわたり近代詩歌に輝くような功績を残した与謝野寛・晶子夫婦が永住の居として自ら設計し、その晩年を過ごした家の跡です。

関東大震災の体験から、夫婦は郊外に移ることにし、当時井荻といわれたここに土地を得て、昭和2年、麴町区富士見町より引越してきました。甲州や足柄連山を眺める遙青書屋と采花荘と名づけられた2棟のこの家に、夫婦は友人から贈られた庭木のほか、さまざまな花や植木を植え、四季折々の武蔵野の風情を愛でました。当時の荻窪を夫婦は次のように描いています。

私は独りで家から2町はなれた田圃の畔路に立ちながら、木犀と稲と水との香が交じり合った空気を全身に感じて、武蔵野の風景画に無くてはならぬ黒い杉の森を後にしてゐた。私の心の銀箔の冷たさを持つ霧が通り過ぎた。

『街道に送る』昭和6年 晶子

大いなるは爐の間のごとく武蔵野の 冬あたたかに暮るる一日 寛

井荻村一人歩みて蓬生に 断たるる路の夕月夜かな 晶子

また、この家で夫婦は歌会を催したり、『日本古典全集』の編纂や歌誌『冬柏』の編集をおこない、各地へ旅行して歌を詠み講演をしました。

昭和10年3月26日、旅先の風邪から肺炎をおこして入院していた寛は、晶子を始め子供達や多くの弟子達に看取られながら62年の生涯を閉じました。

寛亡きあと、晶子は11人の子女の成長を見守りながらも各地を旅し、また念願の『新々訳 源氏物語』の完成(昭和14年)に心血を注ぎました。

昭和17年5月29日、脳溢血で療養していた晶子は余病を併発して、この地に64年の生涯を終えました。

平成6年3月



